

1. 略歴

1976年3月	東京大学文学部第Ⅰ類倫理学専修課程卒業
1979年3月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程修士課程修了
1981年6月	オーストラリア国立大学アジア研究学部博士課程給費留学(～1984年3月)
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程博士課程単位取得退学
1984年4月	東京大学文学部助手
1985年5月	オーストラリア国立大学より Ph.D.学位取得
1988年4月	三重大学人文学部助教授
1993年4月	同 教授
2000年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

インド仏教学

b 研究課題

インド大乘仏教思想史の研究。とくに中観派(Madhyamika)の前史、学派成立の経緯、およびインドからチベットに至る同派の思想展開と影響を洗い直す作業を行っている。

c 主要業績

(1) 著書

編著、齋藤明、五島清隆他 6 名、『空と中観』（シリーズ大乘仏教 6）、春秋社、2012.11

共著、齋藤明、秋元ひろと他 10 名、『因果の探究』、三重大学出版会、2013.3

共編著、齋藤明、一色大悟他 5 名、『瑜伽行派の五位百法』（パウッダコーシャ II）、山喜房佛書林、2014.3

(2) 論文

齋藤明、「ナーガールジュナと〈無記〉説」、『印度学仏教学研究』、60-2、pp. 966-971、2012.3

Akira Saito, "Proof of the Authenticity of the Mahāyāna in Akṣayamatī's Bodhi(sattva)caryāvatāra", 『Transactions of the International Conference of Eastern Studies』、Vol. 57、pp. 48-60、2012.12

齋藤明、「観音（観自在）と『観音経』→鳩摩羅什訳の謎をめぐって」、『伊藤瑞穂博士古稀記念論文集・法華文化と関係諸文化の研究』山喜房佛書林、pp. 179-189、2013.2

Akira Saito, "Buddhapālita's Metaphorical Expression", 『Journal of Indian and Buddhist Studies』、Vol.61-3、pp. 1173-1181、2013.3

Akira Saito, "A Shape in the Mist: On the Text of Two Undetermined Sūtra Citations in the Prasannapadā", 『Studies in Indian Philosophy and Buddhism』、Vol. 20、pp. 17-26、2013.3

齋藤明、「アクシャヤマティ作『入菩薩行論』の大乘仏説論」、『奥田聖應先生頌寿記念・インド学仏教学論集』、pp. 685-694、2014.3

(3) 総説・総合報告

Akira Saito, "Symposium V: "Rethinking the Debate about Whether or Not the Mahāyāna Was Taught by the Buddha: With Reference to Examples from Indian, China, and Japan", 『Transactions of the International Conference of Eastern Studies』、No. 57、pp. 174-178、2012.12

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

東洋大学非常勤講師（大学院演習）、国際仏教学大学院大学非常勤講師（大学院演習）、ウィーン大学客員教授（大学院演習、学部講義）

(2) 学会

日本印度学仏教学会理事長、東方学会常務理事、仏教思想学会理事、比較思想学会理事、国際仏教学会（IABS）理事、国際オリエント・アジア研究連合（IUOAS）副会長

(3) 行政

全学入試実施委員 (2011.5～2013.3)、学生懲戒委員 (2013.4～)

(4) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

日本学術会議連携会員 (第 22 期 2010.10～2012.9、第 23 期 2012.10～)